

明と暗 光と闇

ウイルスの早期収束を祈ります

光

1, マスクをくださった人々・有難うございます。

(1)マスクの不足現象

今、マスクが手に入らない。思い出すのは47年前の「トイレットペーパー買い占め騒動」(註)である。渦中であつたが、冷ややかな眼で眺めていた。今度のマスク不足は外出時の必需品である。1月下旬から少しづつ買い始めた。大量に購入することは心して控えた1月30日宝塚の息子達に声をかけたところ、既に入手不可能ということを知って、息子達に在庫を送付し、手元が品薄になって心細くなっていた。

2月3日東京に所用があつて出向かつた。殆どの方がマスクをして、どこの店舗にもなかつた。1枚のマスクを大事にして自宅に戻る道中で、いつもお世話になっている地元のタクシーに乗って、その話をすると、運転手さんが「私は買い置きがあるから、差し上げますよ」と言つて10枚を束にしてくださいました。お礼をしようとしたが、無用と断られた。私に住むところは山林が多く、杉花粉の震源地で、これからマスクは尚更に必要になる時期に、いとも簡単に、惜しみなくプレゼントしてくださいました。「本当にいいのですか？」と何度か繰り返した。「困っているときはお互い様ですよ」と淡々として去っていかれた。胸が熱くなるのを覚えた。

2月10日から東京の読書会の後ホテルに一泊し、翌早朝に愛媛県松山市へ所用で出かけることになった。四国ならまだ買えるだろうと安易に考えていたら無理であつた。片山さんにそのことを話すと「一箱はあるから、持って行きなさい」と殆ど新品の箱をくださいました。ご自分はどうするのだろうか？心配しながらも、嬉しく頂いた。

翌12日、福岡に飛んだ。何軒も歩いてみたがやはり無理であつた。

そのことを、勤務先の専務さんに話したら、「これ持って行ってください」といって一箱以上の量を下さつた。「いや、これから必要になるよ。とって置いたら」とは話したが、またしても、私のことを配慮し快くプレゼントしてくださいました。

どの人も、絶対にこれから必要になる、頂けるとは夢にも考えたことはなかった。目の前に迫っている危機を知っていながら、些かのためらいのないプレゼントである。

「愛」という言葉以外にない。ありがたい。ありがたい と感謝している次第です。

その後も時間の許す限りお店に入って尋ねているが、一つも入手できないでいる。新幹線、飛行機が日常的になっている私にとっては、お宝である。今日も3店舗歩いたが何時入荷するか分からないという。大切に用いて、この試練の収束の速やかなることを祈っています。

(2)ところで、この「新型コロナウイルス」の原因は何であろうか？

ニュースはしっかりと見ているが、今は対策の方が優先される時期であり、原因を追及する暇はないようで、報道されない。原因追及には相当な時間と費用（人的資源）と勇気が必要であろう。そして、人類の持つ自然治癒力がきつと勝って、原因の追求は忘れられなければならないのであろう。

(註) 「トイレットペーパー買い占め騒動」

1973年（昭和48年）10月16日、第四次中東戦争を背景に、中東の原油産油国が、原油価格70%引き上げを決定したため、当時の田中角栄内閣の中曽根康弘通商産業大臣が「紙節約の呼びかけ」を10月19日に発表した。

このため、10月下旬には「紙がなくなる」という噂が流れ始め、同年11月1日午後1時半ごろ、千里ニュータウン（大阪府）のある店舗が、特売広告に「（激安の販売によって）紙がなくなる!」と書いたところ、300人近い主婦の列ができ、2時間のうちにトイレットペーパー500個が売り切れた。その後、来店した顧客が広告の品物が無いことに苦情を付けたため、店では特売品でないトイレットペーパーを並べたが、それもたちまち売り切れ、噂を聞いた新聞社が「あつと言う間に値段は二倍」と新聞見出しに書いたため、騒ぎが大きくなり、騒動に発展した。

闇

2, 「上様」領収書について

嘆かわしいことに、欺瞞と忖度に満ちた国会答弁が続いている。そして安倍政権に都合の悪いことは全てもみ消される組織になっている。なんと恐ろしいことか。一夜で正義が消され権力追隨に変幻する。そのトップが「人間としてどうかな」と国会で発言している。自画像と他画像の乖離が烈しい。そんな裁判も話題を呼んでいるが、トップの姿勢は隅々に拡散して、やがて文化となる。真善美、良心良識が曲げられてっているのだろうか？
上様領収書については、要点を2020/02/20朝日新聞朝刊4面を一部編集して記録に留めた
い。

『上様』いいのか」という山井氏の質問に対して／「国税庁次長は総合的に判断と答えている。この質疑に至る記事は次の通り。

Q 山井和則氏 「営業の秘密に関わる」とANAホテルは回答したのか。

A 菅義偉官房長官 「首相が17日の予算委で答弁した内容について、ホテル側に確認をとって答えたものだ」

Q 山井氏 「ホテルが言っていないことを言うのは虚偽答弁ではないか」

A 菅氏 「全てホテル側に確認をとった上で答えた」

Q 山井氏 「虚偽であれば首相は責任をとるか」

A 菅氏 「首相が答弁した通りだ」

Q 山井氏 「自民党議員から「もうANAホテルを使わない」という声が出ている。圧力ではないか」

A 菅氏 「私たちはそうしたことをするはずがない」

Q 山井氏 「安倍事務所がホテルと話し、領収書を一人ひとりに発行した明細書は発行しなかった、という書面を提出してほしい」

A 菅氏 「首相が答弁した内容は全てホテル側に確認をとった上で答えた」

Q 山井氏 「首相の虚偽答弁だけでなく、菅氏の虚偽答弁になる」

A 菅氏 「なぜ私の答弁が虚偽なのか。首相が答弁したことが正しい」

アンダーラインはbestopia筆者

領収書の関する質疑応答はこの後に続く

Q 山井氏 「確定申告のシーズンだが、領収書（の宛名）は空欄や「上様」でも適切なのかな」

A 田島淳志・国税庁次長

「税法上特段の定めはないが、一般的には金銭の支出といった事実関係が客観的に確認できる内容となっていることが必要と考える」

Q 山井氏 「上様」や空欄でいいのか。

A 田島氏 「総合的に判断する」

（私見、筆者は現役時代税務調査の立ち会いで、このような事案にしばしば遭遇した。特に消費税が導入されてからは、上様領収書は否認されるばかりか、相手先と人数を記入するように指導され徹底した。中小企業には厳しい税務署も上様には弱い。弱い者を見つけて鬱憤をはらす体質に染まる人々を哀れに思った。その哀れを利用するのが権力者である自由の身となって起ち上がりたいと思う。しかし体力がない。結局、諦めか！悔しい！）

この後

無所属・小川淳也氏が続くが、菅氏の解答のみ記すと次のようになる
菅氏 安倍事務所でそうした会合をやる時に担当している人だ。
ホテルとして正式な回答だった。

菅氏 首相が17日に答弁した。それが全てだ。
菅氏 全てホテル側に確認をとった上で答弁している。
菅氏 まだ確認していないが、首相の事務所では受け取っていないと。
首相が答弁したことは全てだ。
菅氏 そんなことじゃない。ここで答弁していることは責任があるし、
議事録に残る。そこが全てだ。

この後のニュースではANAホテルが首相の発言を否定する内容の記事が流れANAホテルが安倍首相に“忬度”せず、毅然とした態度を取ったので、SNSには「がんばれANAホテル」「ANAホテルを全力応援」と支援コメントがあふれ、“拍手喝采”状態。ツイッターでは「ANAホテル」がトレンド入りするほどの盛り上がりになった。

ところが翌日の朝のニュースでは「ANAのしかるべき人が自民党を訪れ何か協議をしたようで、歯切れの悪い内容が発表された。

森山裕自民党国対委員長は18日、ANA「ホテルのしかるべき方が『大変ご迷惑をかけている』と党本部に来たと聞いている」とも語った。踏み込みすぎたANAホテルに“お灸”を据えるため、党本部に呼びつけたのか？
時事通信の取材には「国会での質疑に関しては、返答を差し控える」と回答があったようだ。

一夜にして良心が踏みにじられるウイルス的な体質が民間企業にも入り込んでいることを、あまりにもはっきりさせすぎた闇の悲劇である。

3, 「人間としてどうなのかな」

(これは安倍首相の言葉です。以下に詳細を記します)

安倍晋三首相は2020年2月4日午前の衆院予算委員会で、「桜を見る会」の問題について、立憲民主党の黒岩宇洋氏から追及を受け、荒っぽい言葉で応戦した。議論は「乱戦」の様相を呈した。

首相の後援会が主催する会前日の夕食会をめぐり、黒岩氏が「買取ですよ」と断じると、首相は「ウソつき」と猛反発。かつて黒岩氏が夕食会に高級すし店の料理を出していたのではないかと主張してきたことをたびたび持ち出し、議場は騒然となった。

主なやり取りは以下の通り。(本文は朝日新聞デジタル版から引用)

黒岩氏 桜を見る会の前夜祭(夕食会)の会費をホテル側と5千円で合意したのは安倍事務所か。
首相 合意とかいうことではなく、ホテル側が提案した額を参加者が支払った。

黒岩氏 安倍事務所だから「一見（いちげん）さん」より安い価格にホテルが設定したということか。

首相 仲介、紹介者の信用というものはあると思うが、それはホテル側の判断だ。

黒岩氏 安倍事務所が常連客だったから、信用に応じて5千円とホテルが設定したということか。

首相 5千円の中には（高級な）「久兵衛」のすしはもちろん入っていない。（久兵衛のすしが夕食会に出されたのではないかと過去に）黒岩委員は喧伝（けんでん）をされた。改めて指摘させていただきたい。（会費の設定は）ホテル側の判断だったと思う。

黒岩氏 安倍事務所の実績があるから一見さんの客と違う対応だった。安倍事務所の信頼に裏付けされた買収ですよ。

（参加者への）利益供与ですよ。明白です。おい、そこ、うるさい！

（首相の席の）後ろ（の人は）関係ないでしょ！ 安倍首相にしか答えられないことに、急に出てくる。あなたの存在が誰か私は知りませんが。

首相 （自席の後ろに控える首相の）秘書官はさまざまな機会に私に答弁のアドバイスをする。それに対して怒鳴るといのは異常な対応ですよ。おかしいですよ。あなたに対して正確に誠実に答弁をしようという一環のことなんですよ。それを、言葉を荒らげて秘書官に怒鳴るといのは、人間としてどうなのかな、と思うわけです。

（この発言をしたときの写真がある。掲載できないのが残念である 筆者）

「買収」という非常に強い言葉を使ったが、まったくそんなことはない。

極めて失礼な私は発言だと思う。証拠を挙げてもらいたい。あり得ない。

そもそも黒岩委員は（参加者に）久兵衛のすしを渡したと言った。

国会議員として、少しは責任を感じた方がいいのではないかな。

黒岩氏 ホテルは（夕食会の）明細書を作成している。明細書の宛名は誰か。

首相 明細書については、私の事務所に確認したところ、

ホテル側から夕食会の明細書は受け取っておらず、内容の確認もしていない。

黒岩氏 明細書の宛名が誰だったか。（棚橋泰文・衆院予算）委員長の差配の範囲で首相から確認し、我々に教えてください。

棚橋委員長 理事会で協議する。

黒岩氏 前夜祭の予約は安倍事務所がしたのか。

首相 「買収」とか決め付けはやめた方がいい。だいたい黒岩委員はいつもそうやって決めつけをする。久兵衛の話もそう。決めつけをしたら真っ赤なウソだったじゃないですか。（夕食会は）事務所で予約をした。（以下省略）

「人間としてどうかな」。この時期に検事長の定年延長、検事長が黒川弘務さんだからの特別待遇ではないかと水面下では思案されている。黒川さんとはどんな人なのだろうか？

国会は一日開催すると3億円かかると報道されて、安倍首相も「新型コロナウイルスの感染症対策などがある中で、こうした非生産的な、あるいは政策と無縁のやりとりを長々と続ける気持ちは私は全くない」（私に不利なことは論議したくないー本音！）

国民の半数も同調しているようです。しかし、国民の目がウイルスに釘付けされている間に検事長定年延長や憲法改正への準備を着々と進めています。

そして、安倍式の諸方法が官僚にも及んでおり、「国民の生命を守り不安を解消する」考えは根っこから心底あったのだろうかときえ思われます。その一例を、和泉洋人首相補佐官と大坪寛子官房審議官の親密な動きの裏を推定してみました。

4、国民の生命を守るとは

①内閣官房健康・医療戦略室という組織がある。根拠条文を探すと下記の内容である

「我が国が世界最先端の医療技術・サービスを実現し、健康寿命延伸を達成すると同時に、それにより医療、医薬品、医療機器を戦略産業として育成し、日本経済再生の柱とすることを旨とするため、平成25年2月22日、「健康・医療戦略室」が内閣官房に設置されました。

そして、同年6月14日に閣議決定した「日本再興戦略」及び関係閣僚申合せによる「健康・医療戦略」に基づき、同年8月2日付で、医療分野の研究開発の司令塔の本部として「健康・医療戦略推進本部」が閣議決定により設置されていましたが、健康・医療戦略推進法の成立に伴い、平成26年6月10日からは同法に基づく法定の本部として引き続き司令塔機能を担っていきます」

主語のはっきりしない文章ですが、私はアンダーラインのように解釈する。

②この内閣官房健康・医療戦略室の室長が和泉洋人首相補佐官、次長が大坪寛子官房審議官である。過日二人は午前中に京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥教授を訪れ、国費の事業支援の終了を伝え医療分野の研究予算を削った。午後は京都観光を満喫したと言われている。

③国立研究開発法人・日本医療研究開発機構(AMED)

これは2015年医療分野の研究開発を総合的に推進する司令塔であり、感染症のプロジェクトもある。この機構に対する予算も削減されたうえ「すべて健康・医療戦略室を通すように」と命令され「昨年7月に大坪氏が次長になって以来、我々の自立性は完全に消失した」と歎いている。独断専行ぶりは「大坪問題」と呼ばれて自民党内でも「やりすぎ」との批判がでている。

④国立感染症研究所、感染症について情報の収集と発生時の対応、研究開発、ワクチンの品質評価と幅広い研究を担って「国民の生命を守り、不安解消を図る」責任を持っている今回の「新型コロナウイルス」でも話題になっている組織である。10年間で20億円のカットがなされ人員不足は慢性的になっているという。人員は国家予算が通れば一人増え

るということだ。予算の削減と慢性的な人員不足は今回のウイルス検査の人員不足と設備不足で現実問題となった。

⑤安倍首相の巧みな言葉に国民の多くは失望をしている。拉致家族に対する度重なる甘言は目に余る。政府のいう国民の生命を守るというのは、高額な軍艦や戦闘機を買うことは新年度予算の国防費の増大を見ても明らかである。

⑥首相の陳謝。小泉さんも同じムジナか？

ある報道では「異例の陳謝」と言っているが、放映される陳謝の光景で、真に心から謝っていると感じ取られるものはない。その場限り、時間が経てば国民は許してくれるとでも思っているのだろうか？陳謝するのに、その文言を官僚に作らせるのに土曜日曜を挟んで文意を工夫している。陳謝には文章はいらない。悪いと思えばその場で顔に出る。それが感情のある人間であるはず。陳謝の出来ない人が「人間としてはどうなのか」と言っているのは、甚だ気味が悪い。

将来を嘱望されている小泉さんの失態、国会での答弁は、賢い諸先輩に「右へならへ」であった。いろんな事情で大臣になったのであろうが失望した人が多かった。

5、何とかならないものか

無名無資格の一市民の力の無さを恥じる。歯止めのかからない温暖化、原発処理、ありとあらゆる脅威の武力と武器等深刻な負の遺産ばかり遺すことになり、これから生まれてくる生命になんとお詫びをしていいのか分からない。

一つ言えることは、民主主義を装った独裁政治を経験した者が、何かを創造の契機だけでも捻出しなければならない、それが無理ならば、その契機となるヒントをひねり出さねばならない。

①選挙制度の改正

今の小選挙区制では自民党の独裁は進む一方である

少なくとも中選挙区制への移行ができないか？これは多くの人が出来ないと言う

では、完全比例制度はどうだろう。

選挙制度を改正することを公約にする政党が現れないのは何故か？この当たりを考えたい

②同じく選挙制度に関連するが、感性論哲学者の芳村思風氏がかって主張していたことと県会議員を市会議員から選ぶ、県会議員から国会議員を選ぶ、総理大臣は国民の直接選挙とする。このようにすると先ず市会議員の質が向上する。選挙費用が節約できる。政党政治（個人の意見が無視されて政党の見解に従う政治）が少しは緩和できるのではないか。

何にしても人間が作り出すことには限界があるが、今の独裁を中断するのが急務、と言っても数年で出来ることでない。革命は犠牲が多すぎる。これまたジレンマである。ともあれ、一つの考え方として発信する他ないのである。